

強力なリーダーシップの元 自主防災活動

～黄色いハンカチで安否確認、日頃の備えが功を奏す。～

このお話は、東日本大震災時の実話です。

鉤取（かぎとり）ニュータウン町内会は、地震発生後 35 分で全 129 世帯約 400 人の安否を確認することができました。

3 月 11 日午後 2 時 46 分の地震発生後、全世帯の 8 割世帯が「黄色いハンカチ」を玄関先に掲げ、家族全員が無事であることを知らせてくれました。

あとは残りの 2 割の世帯を町内会役員が回り、午後 3 時 20 分頃までに町内会の全員にケガ人等がないことを確認しました。

鉤取ニュータウン町内会は、宮城県沖地震を想定して 10 年ほど前から、町内会長を防災リーダーに、各役員が支えとなり、地震発生時に「死傷者」、「火災」、「倒壊建物」を出さない「出さない君」運動を展開して、災害に強いまちづくりに取り組んできました。

避難所生活を想定して、町内会集会所に発電機、ストーブ、飲み水、プロパンガスボンベ等を備えました。

3 月 11 日の夜は、お年寄りや幼児がいる母親ら 83 人が集会所に避難しました。

投光機の灯りと石油ストーブの暖かさは避難者を安心させましたし、備蓄していた飲料水と米、住民が持ち寄った食材でおにぎりとトン汁の炊き出しをし、集会所のテレビで情報収集を行いました。

集会所に避難できない在宅避難者にはおにぎりの宅配をしたとのことでした。



▲▼トン汁を食べテレビをみた

